

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2023. 2
No.354

イナテックCX『コーポレート・トランスフォーメーション』

『コーポレート・トランスフォーメーション』（富山和彦著）をもう一度読み直しました。現在、コロナ第8波が猛威を振るっています。政府は遅きにも今春4月から5月に2種から5種へ、つまりインフルエンザ並みの管理に変えるようです。

このコロナ禍が終息しようとしている今、日本や世界が大混乱を起こして、日本経済や世界経済は疲弊して、もつと深い所に突入し始めていると私は感じています。

これが富山和彦氏の提言してみえる『コロナショック・サバイバル』かと。

※イナテックCX―イナテックグループのあり方の根幹に関わる大変容

このCX(革命)とは破壊と創造である。中大兄皇子や藤原鎌足しかり、源頼朝しかり、織田信長しかり、そして大久保利通や西郷隆盛しかり、破壊役を担った人物の心には鬼が住んでいる。将来世代のためにも、経営者世代の私たちは心を鬼にして破壊王世代になるべし！（富山和彦氏）

まさしく今我々は、「鬼」になり破壊と創造をとにかく高速で回し、経営を数値で結果を出さねばならない2023年に突入しているということ。です。

魔の固定費悪循環サイクル

固定費というのは曲者で、「固定」費なのに放つておくと自己増殖的に増えていきやすい。（中略）

固定費の怖さは、高固定費が慢性化する、その固定費を短期的に薄めるために粗利さえ出していれば薄利の商売でもいいからと、とにかく売上を作る誘因に晒される。営業現場では変動原価すれすれの値下げが横行し、開発部門は売上を前年比で落とさない

ために毎年毎年、小出しの改良商品を出し続け、結果的に前の年の商品は型落ちでまたたく間に値崩れして商品寿命を短くする。結局、開発費用は回収できないまま、・・・高固定費体質は、いわば糖尿病や高血圧のように慢性疾患的に収益構造を悪化させ、稼ぐ力を奪っていく。こんな薄利構造では、真に未来を見据えた腰を据えた開発投資を行えなくなり、成長力も失っていく。重い固定費は、企業の持続可能性を危うくする、まさに重篤な基礎疾患、つまり「サイレントキラー」なのである。

では、どうすればいいのかイナテック

こんな事例があります。今では大阪USJはドイツニーランドを抜きそうなくらい成長していますが、過去USJは、どうしてもドイツニーランドに勝てず「廃業」をも視野に入れないければならない程の時代があったようです。

その時のUSJはお金もなく、社員もギリギリで、ドイツニーランドのようにパレードで踊るスタッフも存在もなかった時です。そこで

USJ社長の旗振りで、皆でどうしたらいいか考えてもらい、出した一策は、パレードのかぶり役はUSJ社員でやろうと決断し、社員全員でパレードダンサーを行った結果、踊りはあまり上手でなかったが、一所懸命さがお客様に伝わり大成功を収めたそうです。

その第2弾がまたおもしろい。今現在ある設備(ジェットコースター)を何と新規投資せずに活用しようと必死に考えた結論が、今のジェットコースターを「バック走行」させるという奇策でした。これも少々問題はあったようですが、お客様には大うけ(後ろ歩きはおもしろい)でした。こんな「人も増やさず、設備投資もせず」これが「USJの文化」になり今では東京ディズニーランドを追い抜くところまで成長したということです。

イナテックの置かれている環境もまさにコロナショックの真つ只中です。出錢を抑え、今ある設備を有効に使い、イナテックグループ社員全員が知恵と身体を使って残り切ります。今年後半(第3四半期)には次のステージが見えて来ます。それまでに必ず効果を出し体質を変えますので、皆さんの御理解と御協力をお願いいたします。

何のために勉強するのか

先月号は「何のために働くのか」がテーマでした。今回も、人間の基本である勉強について日経新聞2022年12月30日の春秋の記事を紹介しします。

「おじさん、大学へ行くのは何のためだ」。

受験勉強中の満男が、ふと寅さんに尋ねる。その答えが良い。「長い間生きてりゃあ、いろんなことにぶつかるだろ。そんなとき、勉強したやつは自分の頭できちーんと筋道を立てて、どうしたらいいか考えることができる」

「男はつらいよ」シリーズの第40作「寅次郎サラダ記念日」にこんな名言があった。よい会社に入るためとか、すぐに役立つ技能を得るためとか、寅さんは決して言わないのである。学問というものの意味を説いて、すとんと胸に落ちる言葉ではないか。一人ひとりが地道に築いた知が積み重なり、社会も強くなる」。

(日本経済新聞 2022.12.30 朝刊)

菜根譚後集

八五

人心有個眞境、非絲非竹、而自恬愉、不煙不茗、而自清芬。須念淨境空、慮忘形釋、纔得以游衍其中。

人の心には真実の世界というものがあって、琴や笛がなくても、ひとりで音楽を楽しむこともできるし、香の煙や茶の香りがなくても、ひとりで清らかな香りに浸ることもできる。(このような世界に至るには)、まず雑念を去って心を清くし、地位とか身分とかの境縁をむなしくして、思慮することを忘れ、肉体の存在することをも忘れるまでになって、そこで初めてこの世界に遊び楽しむことができるようになる。

今このコロナショックサバイバルの世の中、自分の頭で考え、自分の身体で情報を集め、自分の責任で行動し、自分で責任を取る。そしてイナテックグループを守る。これに尽きる。

参考

○へたなコンサルを入れるより、みんなできつかり勉強して、自分で考えたほうがはるかに安上がりかつ有効である(富山和彦氏)

○修羅場の経営のべからず集

・見たい現実を見る経営

ありのままの現実、自分たちにとって都合で見たくない現実から目をそらしたかじ取りでは危機を乗り切れるはずがない

・空気を読む経営

危機においてはその場の空気ではなく、生き残る確信とそのため合理的で冷徹で迅速な判断力と実行力のみである。